

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
2015年度事業計画

I 事業計画基本方針

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2015年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現在のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。
- ③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ 得られた成果を機関紙による広報を通し、広く社会に発信する。キリスト教系メディア、一般メディアに関心を持たせるプログラムを意識する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する。
- ② リピート利用者の丁寧なフォローおよび新規利用者の開拓などに取り組み、利用率の向上及び損益の改善を図る。
- ③ 効率的な運営をはかり、本部および東・西活動センターでの公益活動への貢献度を高める。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容及び各年度事業計画・予算や、事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

公益目的利用外の一般利用者、企業等へ宿泊研修施設の関西セミナーハウスの貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

公益事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プロ

グラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 財政の健全化

- 1) 理事会に承認された予算を守る。
- 2) 年度を通して、運用基金の取り崩しの最小化に努力する。
- 3) 運用基金の運用は、「運用基金運用規程」および「運用基金運用細則」に則り、安全で流動性のある財産運用を行う。

5. 賛助会員、寄附金の拡充

公益事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念を周知し、アカデミー運動を支えようとする賛助会員、寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2015年度事業計画

2015年6月から2016年3月にかけて、関東活動センター事務所や集会室のある日本キリスト教会館の耐震補強工事・改修工事のため、関東活動センターの事業は大きな制約を受けざるを得ない。そのような状況であるが、早稲田奉仕園及び早稲田教会の協力を得て開催場所を確保する。プログラムは、「日本クリスチャン・アカデミーの理念」に基づき、次のように計画する。

1. 関東フォーラム「今日的課題」Ⅰとして、昨年に引き続き「セミナー自死に遭遇した人への慰めとは」を実施する。従来タブーとされがちであった自死の問題を取り上げ、教会と社会における具体的な取り組みの可能性を探るプログラムである。
2. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅰ「古典で読む20世紀」は、昨年に引き続き、現在ではほとんど読まれなくなった先哲の様々な古典的著作を読み直し、21世紀の現在の時点でその意義を再確認することを目的としている。
3. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅱとして、新企画「プロット神父と共に『星の王子さま』を読む」プログラムを実施する。今では古典とされるサンテグジュペリの『星の王子さま』を、長年多角的に研究してきたプロット神父と共に読みながら、「心の居場所」を失った現代の教育の問題に鋭く切り込む。
4. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅲ「これでいいのか日本のキリスト教」は、キリスト教会の枠を越えて様々な分野で活動している若き活動家たちを招き、現代社会への問題提起を聞き、共に考える企画である。
5. 聖書を読むシリーズでは、入門的な聖書講座と、フェミニズムの立場からの聖書の読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。
6. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2015年度は各神学校の賛助を得て、第7回プログラムを実施する。

関東フォーラム 今日的課題 Ⅰ	全5回	『自死』に遭遇した人への 慰めとは	第1回6月8日(月)
--------------------	-----	----------------------	------------

		賀来周一（キリスト教カウンセリングセンター相談所長）	第2回7月13日(月) 第3回9月14日(月) 第4回10月5日(月) 第5回11月9日(月)
関東フォーラム 宗教対話 I	全4回	古典で読む20世紀 武田利邦（農村伝道神学校講師）	第1回5月22日(金) 第2回7月24日(金) 第3回9月25日(金) 第4回11月27日(金)
関東フォーラム宗 教対話 II	全5回	プロット神父と『星の王子さま』を読む	第1回5月 第2回6月 第3回7月 第4回9月 第5回10月
関東フォーラム 宗教対話 III	全4回	これでいいのか日本の「キリスト教」 佐藤真史（エマオ専従） 野田沢（学生キリスト教友愛会主事） 森小百合（学生YMCA主事） 向谷地宣明（学生）	第1回9月15日(火) 第2回11月17日(火) 第3回1月19日(火) 第4回3月15日(火)
聖書を読む講座 I	全 10回	『イエスの譬え話 I』を著者と共に読む 山口里子（日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター）	第1回4月14日(火) 第2回5月12日(火) 第3回6月9日(火) 第4回7月14日(火) 第5回9月8日(火) 第6回10月13日(火) 第7回11月10日(火) 第8回12月8日(火) 第9回1月12日(火) 第10回2月9日(火)
聖書を読む講座 II	全5回	キリスト教入門「まちがったっていいじゃないか！の福音書」 柳下明子（日本聖書神学校教授）	第4回4月16日(木) 第5回5月21日(木)
神学生交流 プログラム		第7回神学生交流プログラム 校長 関田寛雄、 講師 未定	2016年3月21-23日

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター事業計画

日本社会が直面している様々な困難な問題について、キリスト教精神に基づき話し合いを深め、問題の根源的解決の道を探る。

1. 修学院フォーラム「社会」において、第4回の「エネルギーを考える」会を開催し、フクシマを過去のものとして葬ろうとする流れに抗し、そこからの叫びと警鐘に聴き、核に依存しない世界を構築する道筋を考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」において、高齢者の介護や、虐待された子供の支援に当たる人々の働きを通し、支援を受ける者と与える者が、同じ目線で出会い、喜びと悲しみを共有する道を探る。
3. 修学院フォーラム「いのち」において、臓器移植や生殖医療などの先端医療の問題を取り上げ、いのちを慈しむ医療の可能性を探る。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、持続可能な社会を考える。
5. これらに加え、京都のキリシタンの跡を訪ねる会、もみじの美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶、音楽、絵画を楽しむもみじまつりを催す。

修学院フォーラム 社会	第1回	核に依存しない世界に向けて 東北の被災地からの訴え 川上直哉（東北ヘルプ事務局長） 核に依存しない社会の構築 飯田哲也（環境エネルギー政策研究所所長）	2016年 1月10日（日） ～11日（月祝）
	第2回	日本の政治とキリスト教（仮） 佐藤優（作家）	1月30日（土）
修学院フォーラム 福祉	第1回	高齢者福祉のありかた（仮） 中島健二（京都府立医科大学名誉教授、神経内科医師）	7月11日（土）
	第2回	子どもたちに寄り添う 坪井節子（カリヨン子どもセンター理事長）	11月14日（土）
修学院フォーラム いのち	第1回	なぜ、脳死・臓器移植は推進されるのか～いのち・倫理・人間の尊厳をめぐって 小松美彦（武蔵野大学教養教育部会教授）	5月16日（土）
	第2回	赤ちゃんがほしい！不妊治療の進歩は、本当に女性に恩恵を与えているのでしょうか～産科医の立場から	9月26日（土）

		川北かおり（西神戸医療センター産婦人科医長 周産期センター長代行）	
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー（協力プログラム）主催：JICA 関西他	6月28日（日）
	第2回	今、世界でおこっていること～イスラームが問題なのか？ 岡真理（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）	7月18日（土）～19日（日）
	第3回	子どもの貧困～私たちに何ができるか？ 中塚久美子（朝日新聞生活文化部記者）、浜田進士（児童自立援助ホーム「あらんの家」副理事長兼ホーム長）	9月12日（土）～13日（日）
	第4回	歴史認識を鍛える～植民地、戦場の日本人 内海愛子（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長）	10月3日（土）～4日（日）
	第5回	グローバル競争に左右されない暮らしを創る～ゆとりと豊かさを実感できる社会へ～ 松平尚也（NPO法人AMネット代表理事・百姓）	11月7日（土）～8日（日）
	第6回	ファシリテーター・トレーニング～自分への問い直し 木下理仁（かながわ開発教育センター理事・事務局長）	12月5日（土）～6日（日）
研究会		お茶のころと宗教のころ	
		京都のキリシタンを訪ねて 杉野栄（日本バプテスト連盟京都洛西教会協力牧師）	6月6日（土）
もみじまつり		絵画展 徳永恂子（画家） 演奏 竹中 真（ピアニスト）	11月23日（月祝）

IV 関西セミナーハウス事業計画

2015年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

1) 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス主催の文化的プログラムを継続するとともに関西セミナーハウス活動センターや他の教育機関・学会・研究会、諸団体と連携し、その文化、教育、社会貢献活動に参画する。

2) 収益事業の展開

公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊及び研修施設の貸出を積極的に推進する。

3) 公益活動への貢献

2014年度に引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額を設定し、財政的な貢献を担う。

4) 有形、無形財産の活用

能鑑賞会をはじめ茶室、能舞台、日本庭園など本施設が持つ特色を生かしつつ、利用者に満足をもたらす運営に努力する。

5) 広報活動の強化

ホームページ、メールマガジン、フェイスブック、DMなどを通じて、本施設を幅広く、継続的に広報する。

6) 利用者拡大の努力

広報活動のほか、人的活動を展開し、長年、本施設が支えられているコア利用者（大学、企業、キリスト教諸団体等）への丁寧なフォロー、新たな利用者の獲得に努力する。

7) 柔軟な料金体系の設定

適時、季節と繁忙を考慮した柔軟な料金体系を設定する。

8) 健全な収支の確保

利用者の拡大、諸費用の効率化などに取り組み、収支のバランスを整え、事業の継続性を確かなものとする。

9) 施設の更新

収支の改善、資金収支の向上により、減価償却引当資産を充実させ、老朽化している施設の更新を行う。

2. 主な数値目標

1) 収入計画 (P&L ベース)

売上高	1億1,980万円
営業利益	165万円 (売上比 1.6%)

3) 設備投資

年間総額	500万円
主な案件	北棟客室改装 1階トイレ改装

4) 宿泊者目標

上半期	4,800名 (前年比 102.9%)
下半期	4,200名 (前年比 102.7%)
年間	9,000名 (前年比 102.8%)

5) 年度期首要員 24名

(以上)